

1 / 1 『御霊の実を描いて』（ガラテヤ5：16～26）

長谷川 望 牧師

- *今年の古河教会のテーマは「成長のヴィジョンを定める」で、昨年の目標であった「霊的成長を目指す」をさらに具体的に目標を設定するところから始めたい。霊的成長の実がどのような形で表れるかは、ガラテヤ5：22～23に記されている。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」これらの徳、良い実は3つのグループに分けることができる。「愛」「喜び」「平安」は神との関係。「寛容」「親切」「善意」は人との関係。「誠実」「柔和」「自制」は自分との関係。このうち「愛」はすべての項目の上にあるといえるだろう。今年目標としてこれらの御霊の実の一つでも得た自分をイメージして、それに向かって歩み出したい。
- *「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。」（ガラテヤ5：24～25）御霊の実は私たちの内に住まれる御霊の働きによってできる。御霊がはたらくためには、対立する「肉」の自分を認識して、そこから離れることも必要である。5：19～21参照。
- *御霊によって生きるとは、自分中心やこの世中心ではなく神中心の生き方をすること。また、神のみこころを求める生き方である。その土台は「みことば」と「祈り」である。私たちが普段、読んだり、見たり、聞いたりしている聖書のことばが蓄積されて、あるとき何かの神のことばが生きて働くのである。今年も、聖書を読むことや聖書の学びを大切にして続けよう。また、「祈り」も欠かすことができない。祈りによって私たちは神とコミュニケーションをとることができるからである。
- *御霊の実がなる秘訣は教会の中にある。教会の目的である「礼拝」「伝道」「奉仕」「学び」「交わり」に積極的に参加することで必ず霊的成長がある。一人では難しいことでも数人集まれば効果100倍である。
- *御霊に100パーセント満たされている方はイエス・キリストしかいない。このかたをモデルにして近づいていくことが目的である。そのためには、今の自分から何かが変わらなければならない。変わった自分の像を描いて、それを目標にして1年間歩んでいきたい。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」（ローマ12：2）